

まなこ

manako.



特集

身近なことから始めよう

Challenge!
自分で自分の仕事をしる
新しい働き方、見つけてみませんか？

* この人に会いたい！

武蔵野大学教授 **藤原千賀**さん
女性の労働—非正規雇用の働き方を考える

「まなこ」は文字通り「眼」。人やまちや文化や地球を、男女共同参画の視点＝「まなこ」で見たいこう！という思いで名付けられました。1991年創刊以来、市民が企画・編集にかかわっています。

BOOKS

むさしのヒューマン・ネットワークセンターの蔵書から



稼ぐ妻・育てる夫
～夫婦の戦略的役割交換～
治部れんげ 著
勁草書房

アメリカは公的な育児支援が充分といえず、育児と仕事の両立に悩む女性は少なくない。そのなかで、専門職・管理職のアメリカ女性のキャリアを支える夫に注目し、夫の家事育児分担の実態、その意識と夫婦関係のあり方に焦点をあてたのが、本書。自分の仕事より家庭を優先する「家庭志向の夫」だけでなく、「キャリア志向の夫」もインタビューの対象としており、興味深い。



働くママが日本を救う!
～「子連れ出勤」という就業スタイル～
光畑由佳 著
マイコミ新書

著者は授乳服メーカー「モーハウス」代表。授乳服開発・販売の現場で、赤ちゃん連れのママたちが母子一体のまま仕事に向かう「子連れ出勤」の実践例を紹介している。そして少しの工夫で導入できるこの就業スタイルが、「人材不足」に悩む中小企業と、出産・育児の間の就労をあきらめていた女性たち双方にとって多くのメリットがあると提言している。

武蔵野市境 2-10-27 武蔵野市政センター 2階
TEL・FAX 0422 (37) 3410
E-mail mhnc@tokyo.email.ne.jp
URL http://www.mhnc.jp/

男女共同参画社会とは？

男女が、社会の対等な構成員として、自らの意思によって社会のあらゆる分野における活動に参画する機会が確保され、もって男女が均等に政治的、経済的、社会的及び文化的利益を享受することができ、かつ、共に責任を担うべき社会を実現すること（男女共同参画社会基本法第二条より）

* STAFF *

レポーター： 開地京子 小泉真木子 清水順子
野坂謙二 三上かおり 吉羽真理子
渡邊絵里
取材・編集： 作部径子（編集長） 遠藤梨栄 菅野理恵子
清原理恵 林 直子 守谷洋子
編集協力： 栗原 毅
イラスト： きたもりちか
デザイン： 上田ジュンコ
印刷： 巧芸印刷株式会社

『まなこ』は市役所、市政センター、図書館、コミュニティセンター、市内の医療機関、美美容院、大型店舗、金融機関、おふろやさんなどに置いてあります。バックナンバーをご希望の方は、市民協働推進課男女共同参画担当まで。

平成21年度『まなこ』第3回レポーター会議

- 76号「DV(ドメスティック・バイオレンス) ～本当にわたしには関係ない?」を読んで
- 心に傷を負った人に、じんわりと温かい印象をもたらすような表紙が良かった。(50代女性)
- 自分に引き付けて考えられるためにも、DVの概念より具体的な話がもう少し知りたかった。(40代女性)
- 被害者・加害者向けの取り組みや支援などの情報が、もっと欲しい。(50代女性)
- DVは身体的暴力のことと言っただと思っていたが、精神的なことを入ることを初めて知った。(30代女性)
- 男性の育ってきた環境によっては、自分が加害者であっても、気がつかない場合があるのではないかと思っただ。(30代女性)
- 未婚の男女間でお金をだまし取られたりすること、デートDVに近いのではと思った。(40代女性)
- デートDVでは、ロールプレイやグループワークなど実践的な学びが、有効ではないか。正しい知識があれば友だちにも助言ができる。(30代女性)



10月16日(金)
14:15～16:00
市役所605会議室

77号「チャレンジ！自分で自分の仕事をつくる」

- 新しい働き方、みつけてみませんか?」にむけて
- 子どもを預けて外で働きたいが、まだ思案中だ。子育て中の母親向けの仕事情報が欲しい。(30代女性)
- インターネットでの仕事は、問題点もあると思うが、コストを下げずに人となることが可能だ。(50代女性)
- 新卒の悪徳商法や悪質な起業支援などのことも知りたい。(40代女性)
- 人間はお金のために仕事をするのか、社会貢献のためにするのか。(70代男性)
- 結婚後専業主婦になり、配偶者控除内で働いているが、少し中途半端な気持ちでいる。仕事とのかかわり方を考えているところだ。(30代女性)
- 男女の賃金格差は縮まっただけではあるが、格差を当たり前とする社会構造は根強くなるのでは。(50代女性)

Editors' Notes 編集 * 後記

◎ 3月31日発行の78号は、「男だつて生き辛くない! 飯」を特集します。男性の抱える問題について、一緒に考えてみませんか？

働くことは生きること。仕事探しは生き方探し。自分と向き合い、社会と主体的に関わる人々の姿が印象的だった。(遠藤梨栄)

おいしい「樺」のパンに、いろいろなお味が詰まってるのを知りました。ぜひ足をお運びください。(菅野理恵)

自分の「やりたい」を形にして、歩みだしている人たちの出会いに、とても勇気づけられました。(清原理恵)

体が元気なうちは、家庭の外で働きたいと思う。親のこと、子どものこと、自分の老い...無理せず乗り切りたいが。(林 直子)

家族の引越と重なり、締め切りを守れるか不安でした。そのため、いつになく安堵感がありました。(守谷洋子)

「損な働き方」でもパートで働くのが現実。でも、「これっておかしいよ」という声は上げていきたい。(作部径子)